様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１３１０３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１７７４４

研究課題名（和文）特定の家族背景に対する保育者のスティグマの実態と是正プログラムの検討

研究課題名（英文）Childcare Workers' Images of Children with Specific Family Backgrounds

研究代表者
白神　敬介（Shiraga, Keisuke）

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：２０５９８６３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、保育者がもつ特定の家族背景に対するスティグマの様相を明らかにし、保育におけるスティグマ是正プログラムを提案することであった。本研究より、保育者のもつスティグマの背景についての調査を実施し、関連文献の整理・分析と、試行的な実践により、保育現場において実践可能なスティグマ是正プログラムの試案を準備できた。一方で、プログラムの検証については不十分な点があるため、より実施可能性の高いプログラムに向けた検討が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、保育現場におけるスティグマの問題に関する複数の実態調査を経て、顕在化しづらい実態の把握を進められたことによる学術的意義があるとともに、保育現場の課題を示し、より良い保育環境を考えるための手がかりを得たという点で社会的意義があるといえる。さらに、保育者を対象としたスティグマ改善プログラムの試案を作成したことで、保育現場における偏見やスティグマの問題への対応と、保育者としての専門性向上を寄与することのできる成果を得たといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the stigma that childcare workers have toward diverse family backgrounds and to propose an anti-stigma program for childcare. This study conducted a survey of the backgrounds of stigma held by child caregivers, organized and analyzed related literature, and developed an anti-stigma program that could be applied in childcare settings through a trial practice. On the other hand, the validation of the program is still insufficient, and therefore, further study is needed to develop a program with high feasibility.

研究分野：発達心理学

キーワード：保育　スティグマ　アンチバイアスアプローチ　外国につながる家庭　貧困

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年，保育活動場面において国際化，格差の広がりが進んでいる。外国人家庭・子どもへの対応や，貧困家庭への支援は保育において重要な課題と位置づけられる（日本保育協会，2009；阿部，2015）。この背景として，多様性（ダイバーシティ）の尊重や多文化共生の重要性が認知されつつあることが挙げられ，多様な属性をもった子どもや家庭の保育活動への参加を保障するインクルーシブ保育（浜谷，2014）の実践が求められている。特定の家族背景や何らかの属性の存在によって保育活動への参加が妨げられることのないよう，保育者は配慮しなければならない。こうした保育活動への参加を妨げる要因となりうるのが保育者のもつスティグマ（偏見）である。

E・ゴッフマンによればスティグマとは「他の人々とは異なる属性，それも望ましくない種類の属性」（Goffman，1964/2001）であるとされる。スティグマは，特定の人々の地位や状況を不当に貶めるものになりうる。ゆえに，スティグマを是正する動きは世界的に広がっており，日本においてもスティグマ是正のための研究や取り組みが精神障害の領域を中心に行われている（山口ほか，2013）。スティグマは，個人の知識や経験，または生活・職場環境を背景として構成されるため（Corrigan & Watson，2002），個々の背景を踏まえたスティグマ是正の取り組みが求められている。

スティグマは非意識的な機能である。そのため，支援者が何らかのスティグマをもっていたとしても，そのことを本人が自覚できないばかりか，潜在的なスティグマにより特定の人々に不利益をもたらすような働きかけを無自覚に行ってしまうことがある(Corrigan & Watson，2002)。ゆえにスティグマの是正のためには外部からの積極的な介入が必要であるとされる。

保育・幼児教育の現場において，保育者がもつスティグマによって，特定の家族背景をもつ保護者や子どもが保育活動のなかで不利な状況や立場におかれる可能性がある。ここでの「特定の家族背景」とは，虐待，外国にルーツをもつ家族，自死遺族，精神疾患，発達障害，貧困等である。保育においては特に虐待やメンタルヘルスに関連する問題を抱えた保護者・子どもはネガティブな認識を受けやすい。しかし，こうした困難をもつ保護者とその子どもを適切に支援していくことが保育の重要課題であり，保育における支援を妨げるスティグマは是正していくことが必要である。保育におけるスティグマの是正は，困難を抱えた子どもや家庭への適切な関わりを保障し，インクルーシブ保育やダイバーシティ社会の実現につながる重要な意義をもつ。

２．研究の目的

本研究の目的は，保育者がもつ特定の家族背景に対するスティグマの様相を明らかにし，保育におけるスティグマ是正プログラムを提案することである。そのため，(1)スティグマとなりうる家族背景に対する保育者の認識傾向，(2)特定の家族背景に対する認識と保育者の経験・知識・個人特性・環境ならびにスティグマとの関係を明らかにし，これらを踏まえた(3)スティグマ軽減プログラムの提案をおこなう。本研究により，保育者が子どもに広義のインクルーシブ環境を提供するための研修プログラムを開発し，ダイバーシティ社会の実現に向けた保育・教育環境を形成することにつながる。

３．研究の方法

(1)スティグマとなりうる家族背景に対する保育者の認識傾向

特定の家族背景をもった子どもやその保護者にどのような支援が可能であるかを考えるための手がかりを得ることを目的として，近年の保育現場において保育士が認識する保護者対応における課題について探索的な調査を行う。現役保育士 10 名であった。調査期間は 2018 年 11 月であった。調査手続きとして，半構造化インタビューを行った。主な質問内容は，対応に困難を感じた保護者の姿，特定の家族背景をもつ子どもや保護者とのやりとりに関するエピソード，今後の子育て支援を考えるうえで社会全体としてどのような施策や活動が必要だと思うか，であった。

(2)特定の家族背景に対する認識と保育者の属性ならびにスティグマとの関係

保育者がもつ特定の家族背景に対する偏見の様相を調査することを目的とした。調査は保育者 700 名を対象として，特定の家族背景へのイメージを尋ねるオンライン・アンケートにより実施した。本調査では，特定の家族背景として，貧困家庭・外国につながりのある家庭・虐待家庭・親の死別家庭・親に精神疾患のみられる家庭に加えて，比較検討のため望ましいと言える家庭（理想）の計 6 家庭を対象とした。

(3)スティグマ軽減プログラムの提案

保育におけるスティグマ是正プログラムの作成のため，資料収集を進めるとともに，プログラムの理論的背景の妥当性を検証するための実態調査もあわせて実施した。実態調査は，保育・教育関係者 300 名を対象としたオンライン・アンケート調査により実施した。そのうえで，プログ

ラムの実施可能性を検討するため，保育者を志望する学生を対象として，試験的にプログラムを実施した。

４．研究成果

(1)スティグマとなりうる家族背景に対する保育者の認識傾向

保護者とのやりとりに関するエピソードとして調査対象者から多く語られていたのは，外国につながりのある家族と，精神疾患の疑いのある保護者に関するものであった。また，虐待と貧困に関しては，精神疾患の疑いのある保護者に関するエピソードのなかでしばしば言及され，精神疾患と虐待・貧困の関連を保育士が経験的に感じていることを示唆した。対応に困難を感じた保護者については，「伝えてもうまく理解してもらえない」と「育児能力の低さ」という内容が多くの保育士に共通してみられた。そうした保護者に関わるうえで気を付けた点については，「わかりやすく伝えること」が共通していた。くわえて「子どものいいところを伝えるようにする」ということも強調されていた。これらは，特定の家族背景のある保護者への支援において保育士等が実践できるよう，専門性の向上の目標となるべきものといえる。

(2)特定の家族背景に対する認識と保育者の属性ならびにスティグマとの関係

オンライン・アンケート調査より得られた結果より，「理想」の家族背景に比べると，すべての家族背景がネガティブなイメージで捉えられる傾向がみられた。特に，外国につながりのある家庭や貧困家庭に対しては，自由で気ままなイメージがみられ，虐待の家族背景に対しては，規則に厳しいといった不自由なイメージで捉えられている傾向がみられた。クラスター分析によって保育者が抱くイメージの個人差を分析した結果，全体的な傾向とは異なるイメージをもったグループの存在が確認され，特徴的なイメージを構成するグループにおいては偏見的な態度との関連性が示唆された。

(3)スティグマ軽減プログラムの提案

作成した保育におけるスティグマ是正プログラムは，多様性を踏まえた幼児理解，差別的対応に関する知識，保育士の自己覚知，環境構成，家族背景を踏まえたコミュニケーション方法を学習内容とするものであった。さらに，保育実践における態度としてネガティブ・ケイパビリティの有用性に着目してプログラムの内容を検討した。オンライン・アンケートによる実証的検討により，ネガティブ・ケイパビリティが保育における幼児理解や援助にとって親和性をもつことが示され，これらの観点を含めて保育者のスキルアップを目指すプログラムが保育現場におけるスティグマ是正に有益である点が示唆された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 宮本 絢子，白神 敬介	４．巻 70
２．論文標題 自治体における保育士の離職意思に影響する要因と業務負担軽減および離職防止策に関する実態	５．発行年 2023年
３．雑誌名 厚生の指標	６．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白神敬介，岡本和花	４．巻 41
２．論文標題 特定の家族背景をもつ子どもに対する保育者のイメージ	５．発行年 2022年
３．雑誌名 上越教育大学研究紀要	６．最初と最後の頁 285-294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岡本 和花、白神 敬介	４．巻 72
２．論文標題 就学前施設における保育者の自然災害発災に対して抱く不安の実態	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本家政学会誌	６．最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11428/jhej.72.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岡本 和花、白神 敬介	４．巻 39
２．論文標題 就学前施設における保育者の防災教育意識の実態	５．発行年 2020年
３．雑誌名 上越教育大学研究紀要	６．最初と最後の頁 291-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 白神 敬介，岡本 和花
2．発表標題 外国につながりのある子どもに対する保育者のイメージ
3．学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 白神 敬介，岡本 和花
2．発表標題 特定の家族背景に対する保育者のイメージと偏見についての実態調査
3．学会等名 日本心理学会第84回大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 白神敬介
2．発表標題 保護者支援における特定の家族背景に対する保育士の認識
3．学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 白神敬介
2．発表標題 病院の待合室における絵本の役割についての探索的調査
3．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4．発表年 2019年

１．発表者名 白神敬介
２．発表標題 幼稚園預かり保育の実践において保育者が感じる課題
３．学会等名 日本心理学会第81回大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関